

告 辞

県立十日町看護専門学校の令和二年度第一期生入学式に当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。また、これまで温かい愛情を持って支え、見守ってこられたご家族の方々には心よりお喜びを申し上げます。

本校は、県内の医療機関や地域で活躍する看護師を養成することを目的に、地域の皆様のご支援やご協力のもと、県立の専門学校として新潟県が設置いたしました。栄えある第一期生として皆さんが、本校の門をくぐり、たくさんの希望を胸に目を輝かせている姿を目にし、大変嬉しく思います。

本日、皆さんは、「看護職になる」という明確な目的を持ち、高い志を実現するために本校に入学されました。看護師とは、人を尊敬し、人の思いに寄り添い、人とのかかわりによって自らも人として成長できる職業です。人を相手にする仕事ですから、決して楽しいことばかりではありません。まずは相手を理解することが第一歩となりますが、勉学や友人とのかかわりなど日々の学生生活の中で、相手の言葉を正しく理解し、自分の考えを正しく伝える力を身につけていただきたいと思えます。

第一期生である皆さんの行動のひとつひとつが、これから築かれる本校の校風や伝統の礎となるのです。学生生活や実習を通して、本校の教育理念である「いのちの尊厳を基盤とする豊かな人間性や幅広い看護実践能力を身につける」とともに、医療人としてまた人間として磨きをかけ、さらに志を同じくする学生同士で交流を深めながら、豊かで実りある学校生活を送られるようお願いしております。

さて、今年はフローレンス・ナイチンゲールの生誕二百周年を迎えます。ナイチンゲールという人物名は皆さんもよく知っていると思います。ナイチンゲールは、一八二〇年にイギリスで生まれ、看護師だけでなく統計学者としても知られています。近代看護教育の母と言われ、世界初の病院に付属した看護学校を設立し看護教育に尽力されました。

ナイチンゲールの思想は多くの著書で知られていますが、看護とは何か、病気とは何か、健康とは何かを看護論として説いています。そして、「看護を行う私たちは、人間とは何か、人はいかに生きるかをいつも問いただし、研鑽を積んでいく必要がある」と教えてくれています。

皆さんが活躍する二十一世紀の社会は、「超高齢少子社会」であり、人口構造の変化や科学技術の進歩に伴い、医療提供体制や医療技術が多様化、高度化する時代です。

急速に変化する状況の中で、医療の中心的な担い手になる皆さんには、社会から大きな期待が寄せられています。専門的な知識・技術はもちろんですが、命に関わる者としての高い倫理観と、悩み苦しんでいる人に対する人間としての優しさ、そして思いやりが求められています。日々進歩する医療に対し、自ら考え適切に判断する力と、積極的に学びスキルアップを目指す姿勢を養ってください。「命」と向き合う環境で、その大切さを知れば知るほど厳しい現実と向き合うこともあります。その先には、自分自身の成長が待っていることと思います。どんなときでも目を背けることなく、人間とは何か、生きるとは何かを考え続け、看護のプロフェッショナルへと成長されることを期待しています。

終わりに、ここにお集まりの皆様はじめ関係の皆様
の学校に対する一層のご支援をお願い申し上げます
とともに、本日入学されました皆さんが充実した学生
生活を送られることを祈念いたしまして、告辞とさせ
ていただきます。

令和二年四月十日

新潟県病院事業管理者

藤山 育郎